

日本の良さを学び、グローバル社会で生かす

理事長 西河洋一

新年明けましておめでとうございます。財団の「技術経営人財育成と活用」の事業は三年目に入り、多くの方々のご支援により具体的な活動を見て頂くことができるようになりました。

日本の経営者を育成するが西河技術経営塾の設立の目的

「このままでは日本の経営者は育たない。何とかして若い人や、やる気のある人を育成したい」との思いから財団を作りました。その核となる西河技術経営塾は、昨年十月に二期生六名が入塾しました。

私自身、塾にはできるかぎり参加し、塾生とともにMOTの学びを続け、日々の企業経営に活かしていきたいと思っています。財団の目的として塾生の経営する会社を大きくし、そこに働く多くの従業員の方々を豊かにすることがあります。地味ではありますが、我々の活動により豊かな日本国の実現に向け努力してまいります。

海外から学ぶことが沢山あったが日本には質の良い仕事ができる環境がある

昨年は海外に出ることも多く、異文化に触れる中で、海外から学ぶことが沢山ありました。その反面、日本の良さにも気付きました。「治安の良さ」「食文化の多様性」「貧富の格差が少ない国」「おもてなしの心」「性善的相互信頼関係」など、日本はとても住みやすく、仕事もし易く、そして良い仲間がいて、質の良い仕事ができる環境が整っていることを実感しました。

財団の研究課題、グローバル社会で日本人の資質を生かす経営

日本の会社にはトップダウンの指示を理解し、ボトムアップの改善提案ができる現場力があります。モノづくりの現場からの改善や改良が、付加価値の高い商品づくりを支えています。日本の良さを再認識し、更に磨きをかけ、海外の事情や状況に合わせたモノづくりをすることで、世界に貢献できるものと確信しました。海外の企業が日本の優秀なる技術者を求めて日本に研究所をつくる時代です。グローバル社会で日本人の資質を生かす経営の研究も財団の課題としていきます。

以上